



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/4 (月)	▲ 600	▲ 66,500	▲ 67,100	国庫短期証券発行・償還 (3M) 法人税・消費税・保険 掲げ	成長基盤強化 ▲ 10,258 国債補充供給 + 39,900		
12/5 (火)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				米：ISM製造業景況指数 (11月) 欧：ユーロ圏PPI (10月)
12/6 (水)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000	国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 6,360		米：ADP雇用統計 (11月) 貿易収支 (10月)
12/7 (木)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				日：景気一致指数 (9月) 景気先行CI指数 (9月) 欧：ユーロ圏GDP (3Q)
12/8 (金)	▲ 2,000	▲ 10,000	▲ 12,000	国債発行 (30年)			日：GDP (3Q) 国際収支・経常収支 (10月) 米：雇用統計 (11月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5,000億円減少の543兆7,400億円から始まった。その後、同残高は国債発行を含む財政等要因から緩やかに減少したものの、30日に国債買入オペ等により増加に転じ539兆3,600億円で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.017%から始まり、その後は一部ビットサイドが資金調達に慎重な姿勢を見せたことから、29日には▲0.022%まで低下した。しかし週末となる1日には、3日積み要因からビットサイドの資金調達ニーズが強まり、同加重平均金利は▲0.015%へ上昇した。

ターム物は2~3W物を中心に▲0.03%~▲0.01%台で取引された。

来週の予定としては、国内では、8日にGDP(3Q)の公表、海外では7日にユーロ圏GDP(3Q)、8日に米雇用統計 (11月) の公表などがある。

### <レポ>

足許GCは週初▲0.105%~▲0.09%のレンジで推移し、取引が月末過ぎとなる29日には▲0.11%の出合いが見られた。

その後は▲0.10%近辺で取引され、3m短国の入札があった1日の後場には▲0.09%近辺まで上昇した。

SC取引は2年438~455回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約2兆6,790億円で、週間償還額 (約1兆7,700億円) を上回った。発行市場は、月末日の大量発行と鉄鋼や機械等にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆3,256億円から月末30日時点で27兆4,255億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。27日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.000% (前回-0.003%)、平均落札レート0.027% (前回0.004%) と按分レート、平均落札レートが共に前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約7,100億円となっている。発行市場は、事業法人の税払いや賞与支払い等に向けたCPの利用が想定され、活況なマーケットとなると思われる。発行レートは、金融政策修正の警戒感等から3か月超の案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。

### <TDB>

1日の3M (1198回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1507% (前回債▲0.2047%)、平均落札利回り▲0.1656% (前回債▲0.2266%) となった。

来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.030